

春風秋霜

5月号

令和4年5月21日
島田市教育委員会だより
教育長 山中 史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 教育委員会の仕事

教育長を拝命して1か月半が経ちました。島田市教育委員会では、毎年、所管する課でどのような事業を実施するのかを各課と確認しています。新米教育長として、全てを勉強しなくてははいけません。各課では、例年行っている事業だけでなく、新しく計画している企画などもあります。教育部には、教育総務課、学校教育課、学校給食課、社会教育課、スポーツ振興課、図書館課、そして教育委員会と関連している課として、観光文化部にある文化振興課と博物館課があります。

教育委員会が関わっている仕事は、本当に多岐にわたっています。教育委員会では、小さな子供から、義務教育に関わる子供たち、これからの島田を引っ張ってってくれる青少年の皆さん、そして成人した大人や高齢者の皆様まで、全ての人に關わる事業を実施しています。だからこそ、教育委員会には、市民の皆様からの期待が大きいのだと思います。

今回、いろいろな方とお会いして、様々なお話を聞かせていただけることも、楽しみです。行政に関わって強く思うことは、市民の皆様にとって素敵な島田市になることが一番大事だということです。私自身は、学校現場で長く仕事をしてきましたが、夢や目標をもった子供たちが、たくさんいました。昨年開催されました「東京2020オリンピックやパラリンピック」には、島田市出身の選手が何人も参加しています。先輩たちの後ろ姿を見ながら、夢や目標に向かってがんばっていく子供たちがたくさん出てくれることを楽しみにしています。

2 歴史から学ぶ

私の好きな言葉は、「夢から始まる！！」という言葉です。最近の子供たちは夢がないと言われることがあります。野球、サッカー、バスケットなどのスポーツの世界だけでなく、囲碁や将棋の世界などでも、多くの若者が大活躍をしています。もちろん才能が関係あるのかもしれませんが、本人の努力の成果が大いに発揮された結果という人がたくさんいると思います。

人生は一度しかありません。自分の意思をもって動き始めるときっと素敵な人生が歩めるのではないのでしょうか。夢や目標をもって努力していくことが大事だと思います。

さて、今回は日本の歴史を少し振り返ってみたいと思います。私たちが歴史から学ぶことはたくさんあります。今回は、吉田松陰が生きていた幕末の頃のことを考えてみたいと思います。幕末と言えば、坂本龍馬をはじめ「さあ、新しい日本を作るぞ。」という意気込みにあふれ、自分たちが動かなければ何もできないという強い意思をもっていった人たちがたくさんいた時代だと思います。山口県萩市にある旧萩藩校明倫館に行かれた方はご存じだと思いますが、明倫館は享保4年(1719年)に5代藩主毛利吉元が、毛利家家臣の子供たちの教育のために開いた学校です。現在は、萩・明倫学舎として公開されています。当時活躍した吉田松陰などが紹介されています。幕末の時代に、長州ファイブと言われる5人の若者が萩藩から特命を

受けイギリスに留学したことも紹介されています。当時は日本を出ることは許されていませんでしたから、彼らは密航という形でしか外国に行くことができなかったのです。後に初代内閣総理大臣になった伊藤博文や初代外務大臣になった井上馨、工学の父といわれた山尾庸三、後に造幣局長となった遠藤謹助、鉄道の父と言われた井上勝などが夢をもってイギリスに留学したのでした。これらの人たちの存在が、日本の近代化や工業化を進めていく力となったのです。

新型コロナウイルス感染症の流行、生活の様式の変化、世界情勢の大きな変化などを考えると、これからの日本をどのようにしていくのか、もっと言えばこれからの世界をどのようにしていくのかを真剣に考える必要があると思います。

3 自然の世界は厳しいです（ツバメの巣）

我が家では、毎年ツバメが巣を作り、一度に4羽から6羽のツバメが巣立っていきます。しかし、今年は初めてツバメの巣が、カラスに狙われて、巣を少し壊されてしまいました。

今までカラスに襲われることがなかったのですが、我が家の犬が死んでしまって、いつも犬が吠えている声が聞こえなくなってしまうことが原因なのかなと考えました。卵を落とされてしまい、現在一羽のひなしかいないようです。何とかツバメの巣を守りたいと考え、色々と工夫をしています。

自然の世界は厳しいというのが実感です。



肘かけ椅子

教育委員 柳川真佐明

「向谷町自治会館」

3月末に島田市向谷町に建設された、向谷町自治会館の落成式が行われました。地域の木材をふんだんに使用した施設ということもあり、メディアにも取り上げられていました。

今木造化及び木質化される地域の公共施設や福祉施設等の建築には、その地域ごとに組織されたグループが木材の納材をしています。

県内には豊かな森林をもつ、伊豆（木ザ I z u）・御殿場（東静モク木サークル）・富士（FUJI HINOKI MADE）・安倍川（オクシズネット）・大井川・天竜川（天竜材水平連携協議会）の六つのグループがあり、島田市のそれは、大井川流域の「COC 大井川グループ」といい、適正に管理された森林から搬出された木材を加工・販売している会社で組織されています。

「大井川流域の木材」とは何でしょう。主に川根本町・島田市・藤枝市の森林で育った木材のことを言います。また「適正に管理された」とは、将来につながるような森林の経営のことを指し、今注目されているサステイナブルそのものです。

これらの地元の木材を使用した建築物を作るということは、林業をはじめとする地域の産業を支え、遠方からの搬送等による環境負荷の軽減、使う人々の健康や安心等良いことがたくさんあります。身の回りの建築物の木材に興味を持ち、そのルーツに思いを馳せることは案外面白いことかもしれません。